

甲斐市立竜王北小学校 自己評価書

令和2年2月21日（金）

校長 廣瀬 昇

記述者 教頭 増坪 広夫

学校教育目標 「創造性豊かな心身ともにたくましい子どもの育成」

- ① 自ら学び深く考える子ども
- ② 心美しい思いやりのある子ども
- ③ 明るく健康でたくましい子ども

学校経営方針

- ・全ての教職員の力を集結する中で、職員組織の協力・支援体制を確立し、活力ある学校の創造と教育目標の具現化に努める。
- ・教育目標の達成を目指した創意ある教育課程の編成・実施・評価に努める。
- ・確かな学力の向上を図るための学習指導の改善と工夫に努める。
- ・教職員と児童、児童相互のふれあいを深め、豊かな心を育むとともに、きめ細かな生徒指導に努める。
- ・教師として、常に研究と研修に努め、校内研究の充実を図るとともに、専門職としての資質能力の向上に努める。
- ・地域人材を活用した道德教育の推進に努める。
- ・児童自らが進んで健康な生活を送ることができる実践的態度の育成に努める。
- ・教職員間の支援体制の確立、家庭や関係機関との連携を通して、特別支援教育の充実に努める。
- ・安全な学校生活が送れるよう危機管理体制を確立する中で、教職員の危機管理意識の高揚に努める。
- ・保幼・小・中や家庭・地域・関係機関との連携を図るとともに、こまめな情報発信を通して、地域に開かれた学校づくりに努める。
- ・外国語（英語）活動において、ALTと連携を図る中で国際理解教育の推進に努める。
- ・教育環境の整備・充実を図り、教育活動における効果的な活用と環境教育の推進に努める。
- ・横断的教育活動を通して、ボランティア活動等福祉教育の推進に努める。
- ・小・中学校9年間を見通した効果的な指導を図るため、小中連携を図る。

1 全体評価

年度始めの「学校経営の基本方針」に基づき、本年度の指導重点項目を設定し、それを具現化する様々な取組を行ってきている。

（1）学習指導の充実と向上に努める。【知育】

「学習、生活規律の確立」「時間の遵守」「朝のおはようタイムの充実（読書・国語算数のドリル学習）」「わかる授業の実践」「宿題と家庭学習の推進」「言語活動の充実（北小スピーチ等）」「体験的、横断的学習の充実」「個に応じたきめ細かな指導（TT指導・補充学習・取り出し指導等）」「ICT機器（電子黒板、デジタル教科書）の活用」

（2）心の教育の充実に努める。【徳育】

「本物体験（地域の素材や人材、外部の専門家、出前授業の活用）」「協働による清掃等教育活動の推進」「声かけ、あいさつ運動」「早寝、早起き、朝ご飯の推進」「各行事の充実」「縦割り活動の推進」「学校、学年、学級だより、HPの公開や学校だよりの配布等による情報発信」

（3）健康・安全教育と体力の向上に努める。【体育】

「1校1実践の体力づくりの推進」「体育の広場の充実」「ラジオ体操」「個に応じた水泳指導」「登下校時の安全対策と指導」「健康三原則の推進（食事・睡眠・運動）」「保健、給食だよりでの情報発信」「安心メールを利用した情報発信」

その他、起案方式の継続、教育課程の編成と実施、報告・連絡・相談（さらには反省と改善）の徹底、スクールカウンセラーや県教育センター、スクールソーシャルワーカー、医療機関、サポートルームたんぼぼ、市子育て支援課、県中央児童相談所等関係機関との連携強化等様々な教育活動を行ってきた。さらに今年度は、県教育センターから研究協力校の指定を受けた2年目として、これまでの指導主事による理論から実践に至る具体的な示唆をいただいた成果を拡大研究会として発表することができた。また、特に高学年を中心に県教委の進める「学びのサイクル改善事業」や「新聞ワークブック」を利用した表現力を高める学習にも取り組んできた。

廣瀬校長の強いリーダーシップのもと、教育活動についてのビジョン及び成果と課題を明確にすることによって、全職員の共通理解が図られ、指導の方向性を確認することができた。個人がしっかりとした問題意識を持ち、全体で課題を明確化し取り組んでいくことにより、いじめや不登校あるいは学校不適応など、個に応じたきめ細かな指導を充実させ、児童一人ひとりを大切にしたい教育活動に努めることができた。また、運動会や音楽会等の学校行事への取組を通して、学級・学年集団の団結力を強め、それぞれの発達段階に応じて、集団生活を営む力を育てることができた。「あいさつ運動」については、学校も家庭も継続して取り組んでいるが、「心のこもったあいさつ」100%をめざしてさらなる取組を推進したい。また、児童の学力を伸ばすための教科指導、学校行事への取組、日々の生徒指導、家庭や地域との連携等に傾注してきたが、授業実践における評価規準や評価方法の明確化、情報の管理、いじめ他の問題行動の早期発見と対応などに対しては課題も見られ、教職員の資質向上と意識改革が望まれる。また、教職員の多忙化が社会的に取り上げられるようになっている中、教職員自身に「余裕」や「ゆとり」をもたらすためにも、協働体制をさらに充実させたり、時間を効率的・効果的に活用したりする様々な工夫を試みていく必要がある。

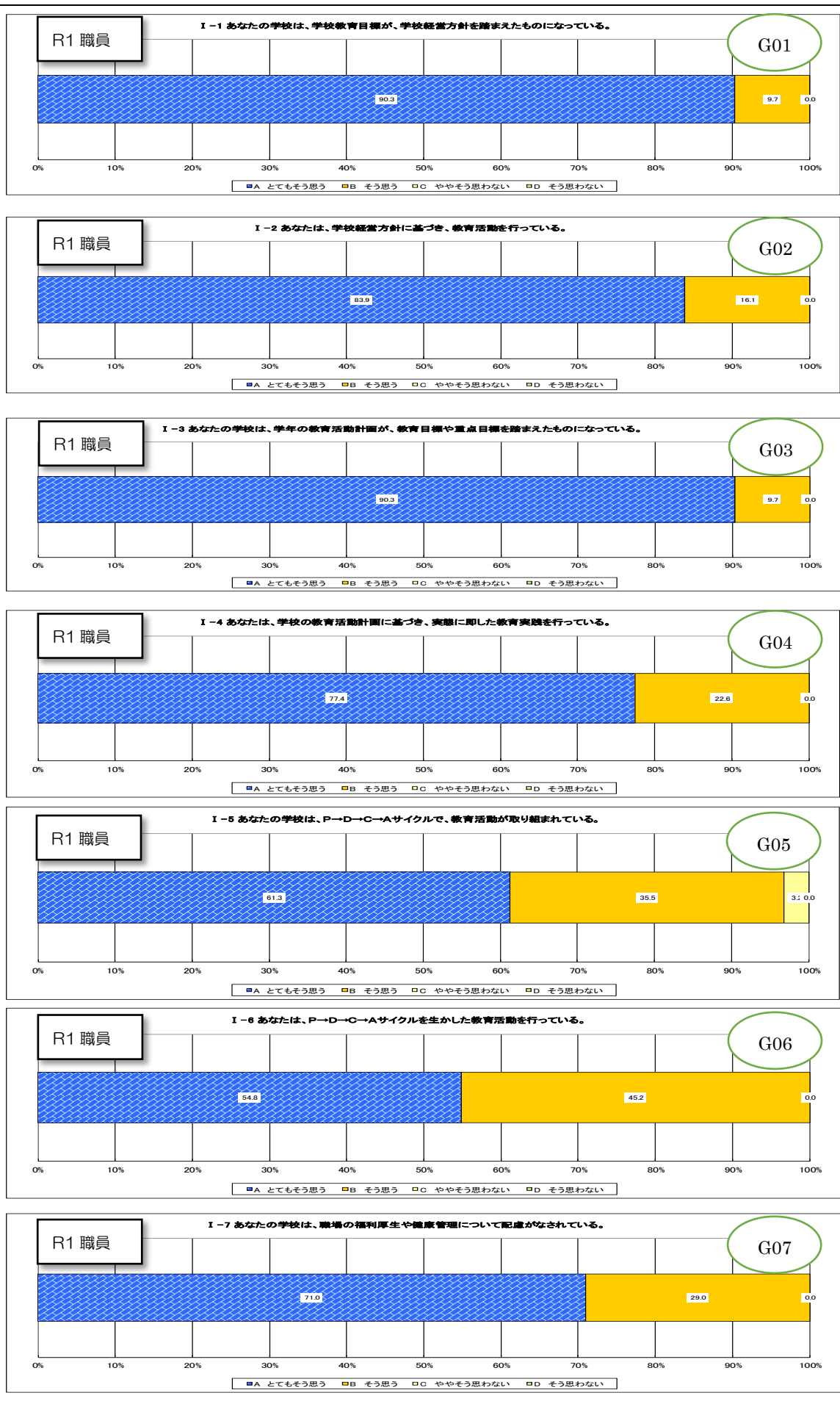
全般的に教職員・保護者・児童のアンケート結果は、どの項目も肯定的な評価結果であった。このことから、学校教育を全体的な視点でみた時、本校の教育が充実した中で行われていると言える。学校が、多くの子どもたちにとって楽しい居場所となっていることから、学校生活の中にそれぞれの力を発揮でき活躍できる場が確保されていると考えられる。今後とも学習規律や、話を聞く態度については気を緩めず指導していきたい。また、互いのよい面を認め合い切磋琢磨して勉強する雰囲気育て、つまずきのある児童への効果的な手だて・個々の児童を伸ばすための指導を工夫し、確かな学力の習得に努めたい。また、新しい教育課題にも積極的に向き合い、取組を進めていきたい。今後も、これまで行ってきた教育活動を推進・発展させると共に、さらに個に応じたきめ細かな指導に配慮することが大切だと考える。

肯定率が伸びている内容については、更なる向上を目指し、肯定率が低下した項目については、状況を精査し自己改革を図りたい。学校評議員や学校関係者評価委員会、また、保護者や地域の方々からのご意見、ご指導をいただく中で、課題解決に向けた具体策を講じるとともに、信頼される開かれた学校づくりに努めていくことが重要であると考えます。

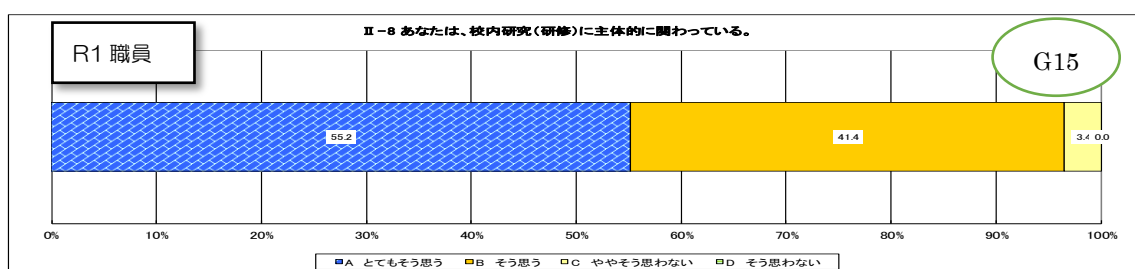
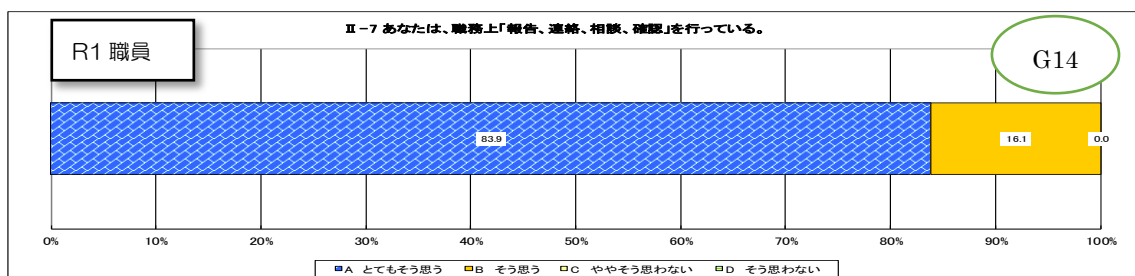
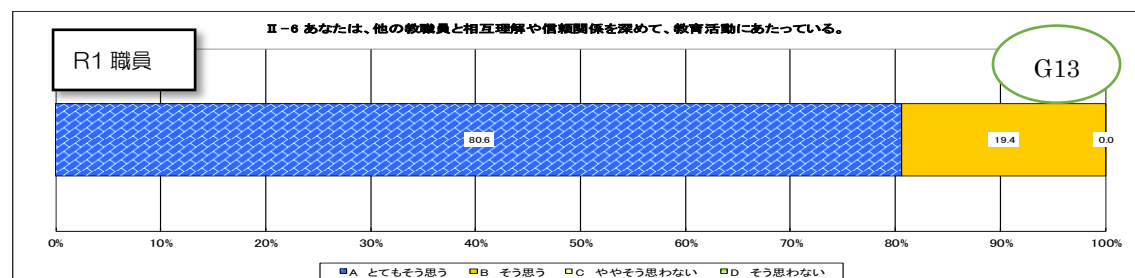
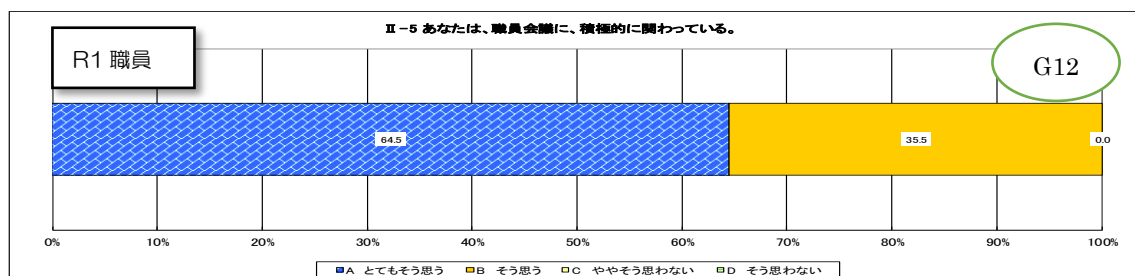
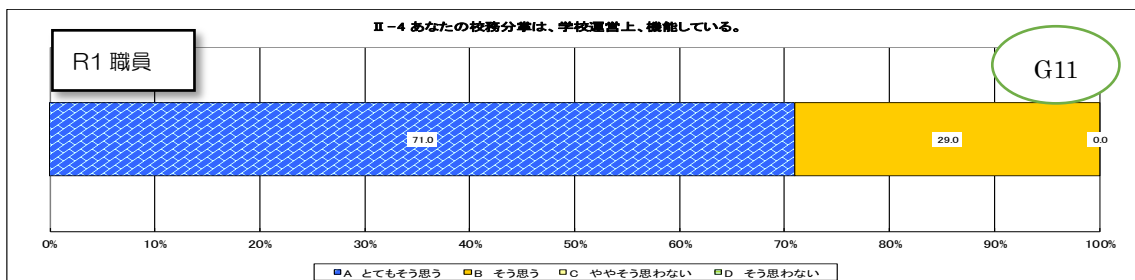
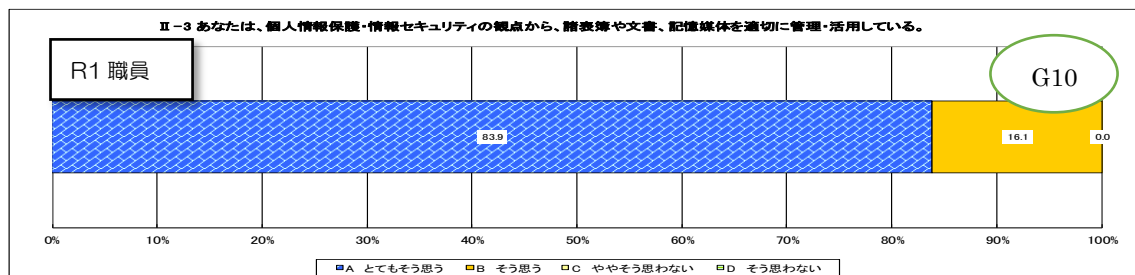
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

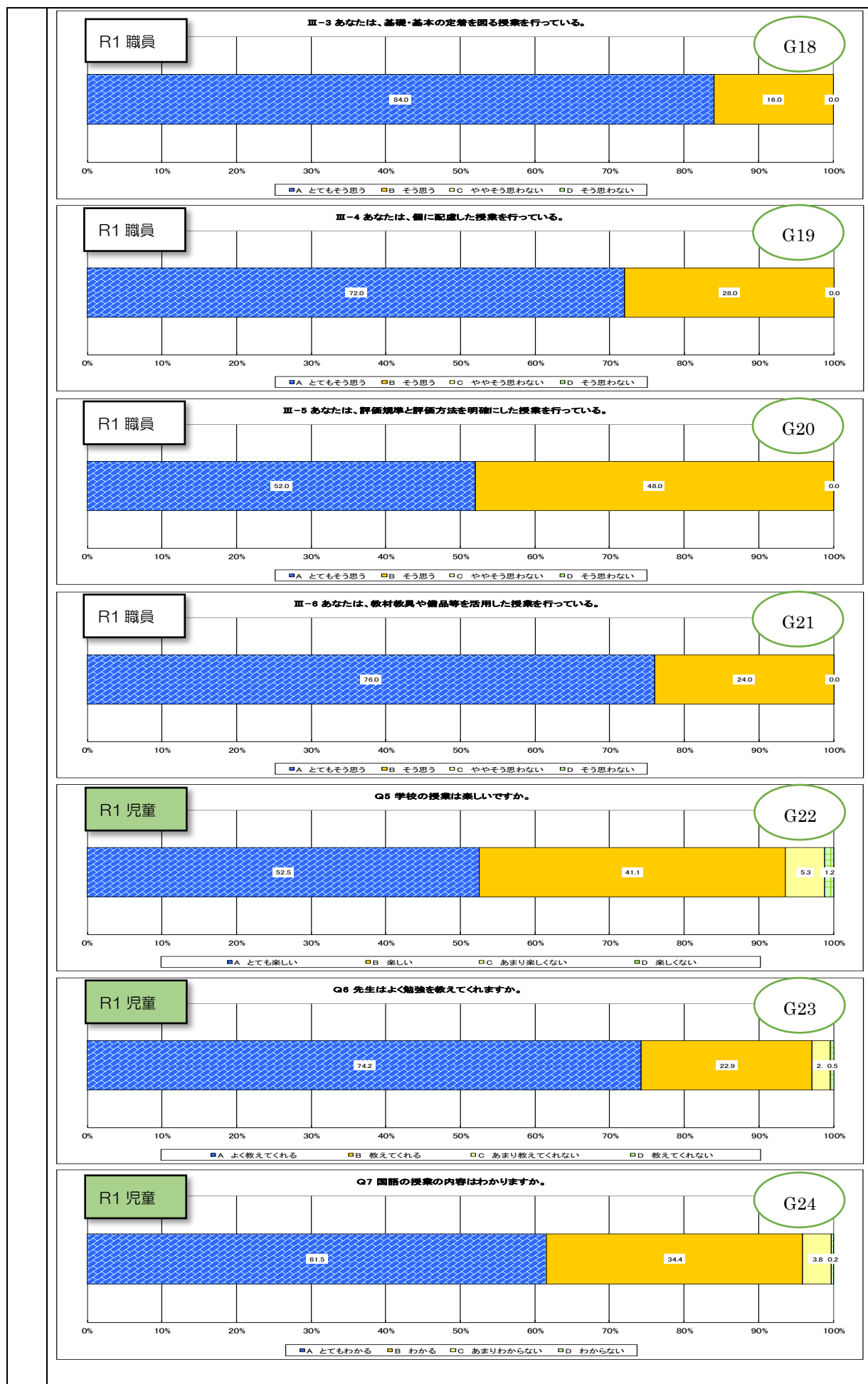
達成状況	今回の自己評価においては、①「学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている」②「あなたは学校経営方針に基づき、教育活動を行っている」③「学年の教育計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている」④「教育活動計画に基づき実態に即した実践を行っている」⑥「あなたは、PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている」⑦「職場の福利厚生や健康管理について配慮されている」のAB肯定率が100%であった。また、⑤「あなたの学校はPDCAサイクルで教育活動が取り組まれている。」も97%と高い数値であったことから、学校教育目標、学校経営方針、本年度の指導重点が全教職員に浸透し、児童の実態にあった教育実践が学校全体としてなされていることを表している。 気になる点では、⑥のA肯定率が60%を下回っていることから、「計画・実践・反省・改善」の考え方を再度確認し、改善していく姿勢を持つ必要性を感じる。
------	---

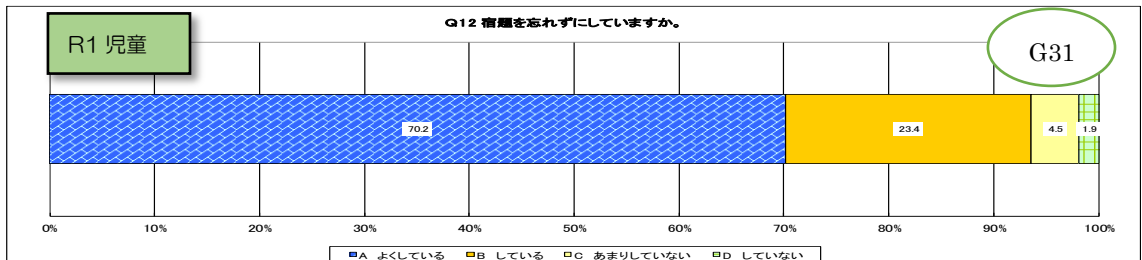
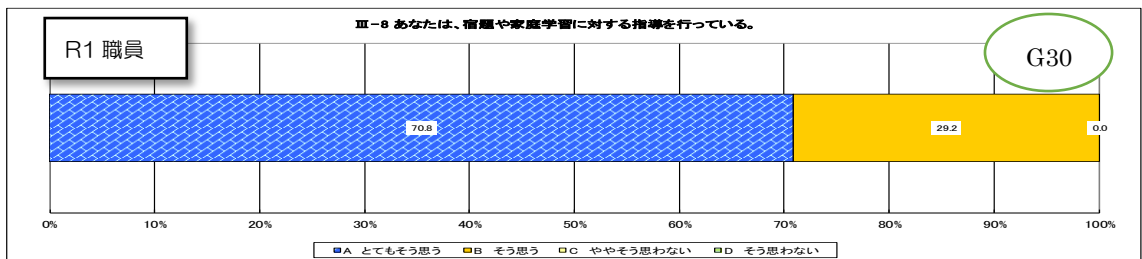
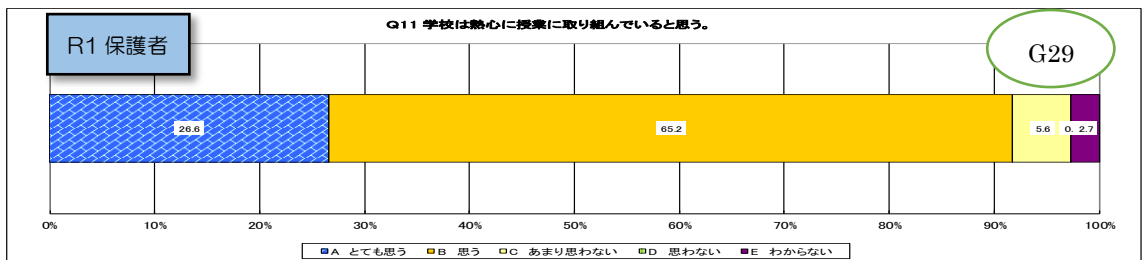
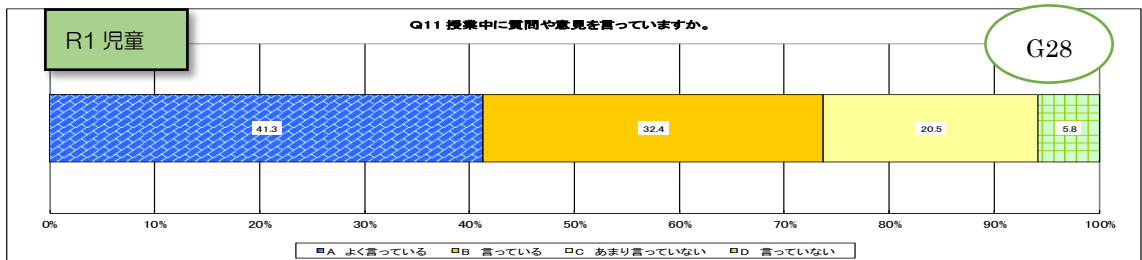
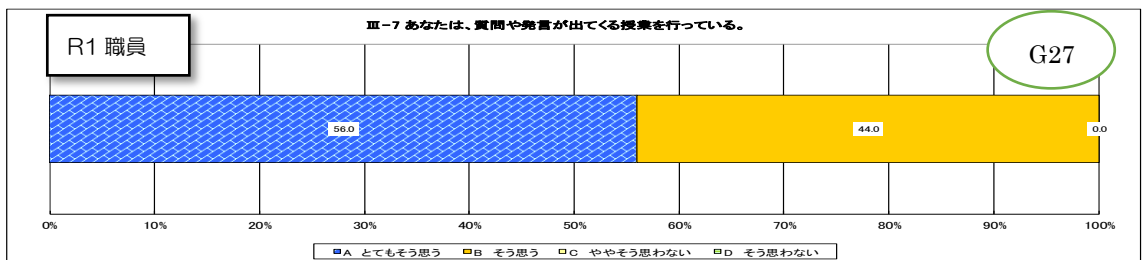
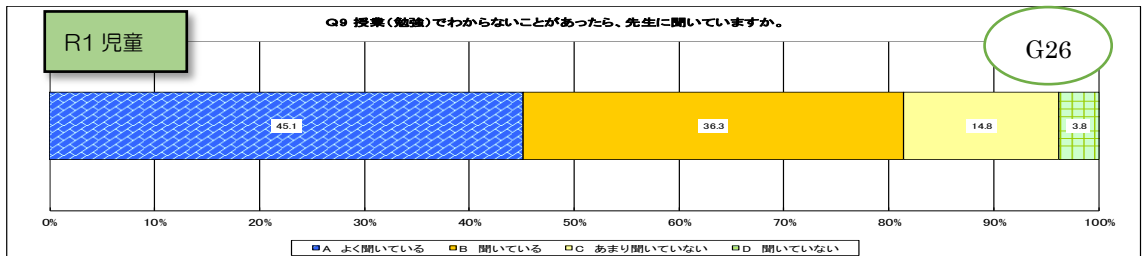
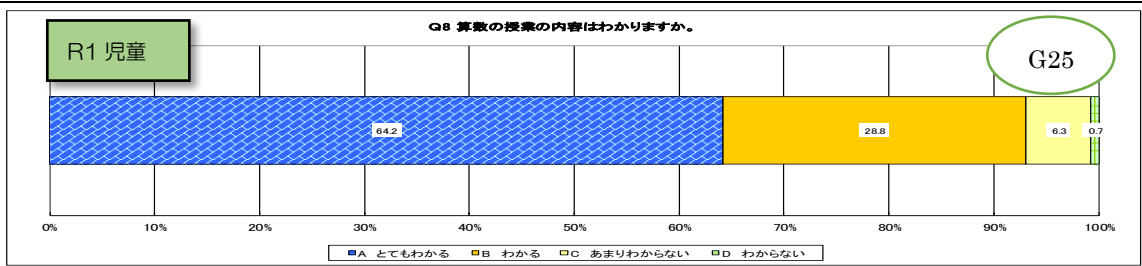


改善策	・⑤以外の項目すべてでA B肯定率が100%になっていることは評価できる。今後もさらに、校長の強いリーダーシップのもとで学校教育目標達成のため、一人ひとりが学校教育目標・学校経営方針・指導重点の認識や理解を深め、内容的関わりを意識していきたい。そして、PDCAサイクルを生かした教育活動を学校全体で取り組んでいき、「子ども達の幸せ」を目指した充実した教育活動の改善を今後とも図っていく。 ・多忙感を少しでも低減していけるよう、日常の声かけ、協働体制づくり等により明るい職場づくりや、教職員の心や精神面の健康において、ストレスや疲労がたまらないようにメンタルヘルスの取組を今後行う。また、職員厚生部を中心に、職員の健康増進や親睦が図れる活動を実施し、心身ともに健康を維持できる職場環境に努めていく。																				
Ⅱ 学校運営について																					
達成状況	・学校運営の項目について、①「施設設備の定期的点検、結果を的確に処理・報告」②「危機管理マニュアルの理解」③「諸帳簿や文書、記憶媒体の適切な管理・活用」④「校務分掌の機能」⑤「職員会議への積極的関わり」⑥「相互理解や信頼関係を深め、教育活動にあたる」⑦職務上の「報告、連絡、相談、確認」の項目のA B肯定率が100%、⑧「校内研究へ主体的な関わり」の項目のA B肯定率が約97%となっており、全般的に高い肯定率となっている。 ・危機管理マニュアルの理解については、昨年度よりA肯定率が15ポイント上昇した。全国各地で発生している災害への対応の周知や、通学路の点検や予告なしの実践的な訓練などに取り組んだ成果とも言える。今後は、緊急時に指示待ちではなく自分で考え行動する主体的な実践力を付けていきたい。 ・諸帳簿や記憶媒体などの情報管理については、A B肯定率が100%であり、情報管理の重要性が定着してきている。しかし、Bの評価があることを課題として情報管理のさらなる徹底を図りたい。 ・職員会議への関わり方に対するA肯定率が昨年度に比べて10ポイントほど上昇した。しかし、他の項目と比べると65%と低く、会議へのより積極的な参加や意見等の発信が求められる。 ・職員の相互理解や職務上の報告等の質問では、昨年よりA肯定率が10ポイント下降した。多忙な中でも職員間の連携・協働を図り、報告・連絡・相談を徹底していきたい。 ・校内研究では、県総合教育センターの協力を得て、理論的・実践的な研究を行い、教員の資質向上を図ってきた。しかし、A肯定率は昨年度より4ポイント上昇したが57%と低く、より積極的な校内研への関り方が求められている。 Ⅱ-1 あなたは、校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告(整備・保全)している。 R1 職員 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>74.2</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>25.8</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table> G08 Ⅱ-2 あなたは、危機管理(防犯、防災、事件、事故等)マニュアルを理解している。 R1 職員 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>61.3</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>38.7</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table> G09	回答	割合	A	74.2	B	25.8	C	0.0	D	0.0	回答	割合	A	61.3	B	38.7	C	0.0	D	0.0
回答	割合																				
A	74.2																				
B	25.8																				
C	0.0																				
D	0.0																				
回答	割合																				
A	61.3																				
B	38.7																				
C	0.0																				
D	0.0																				

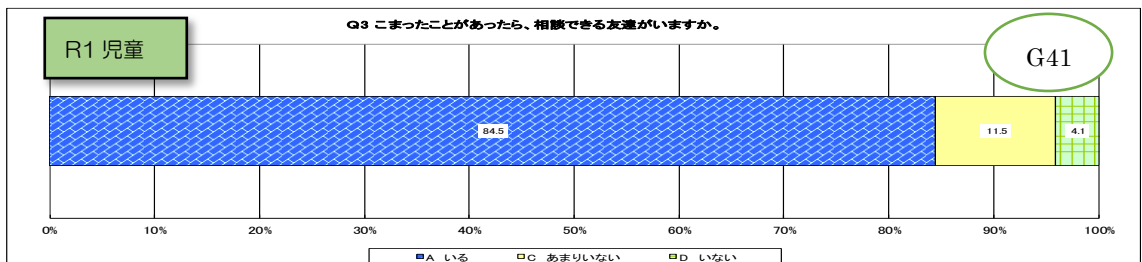
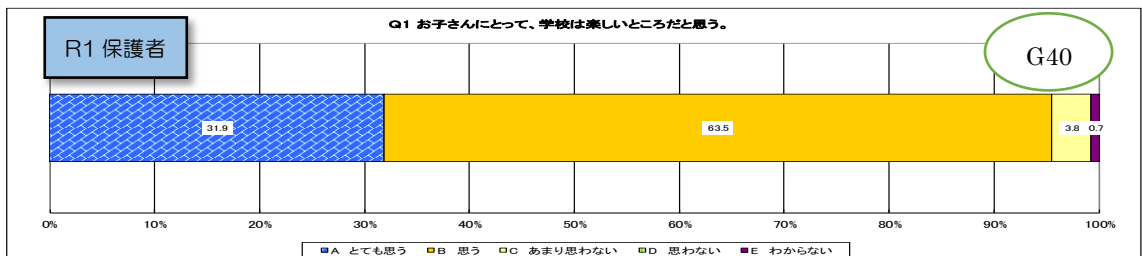
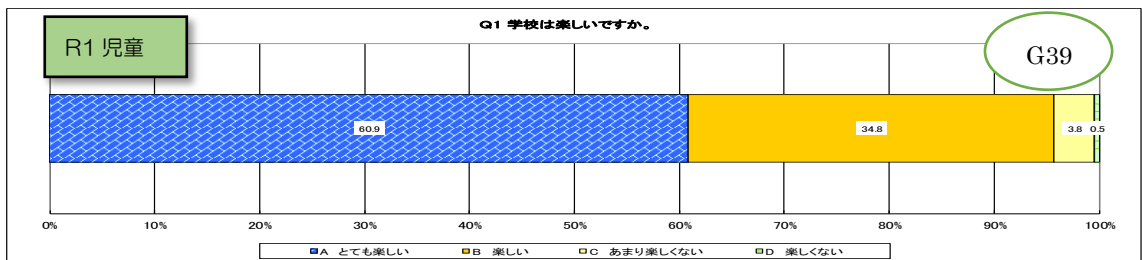
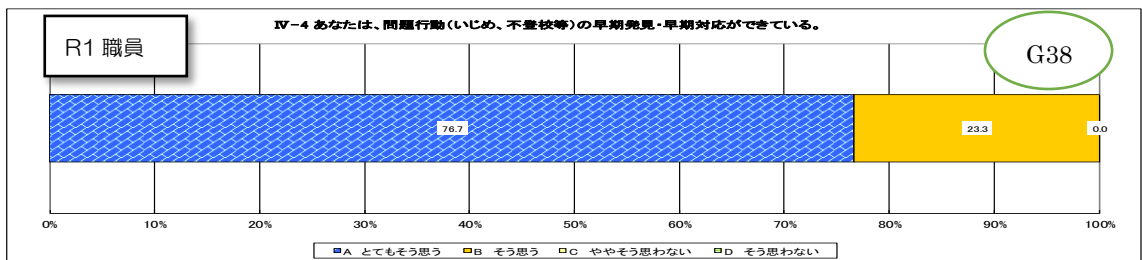
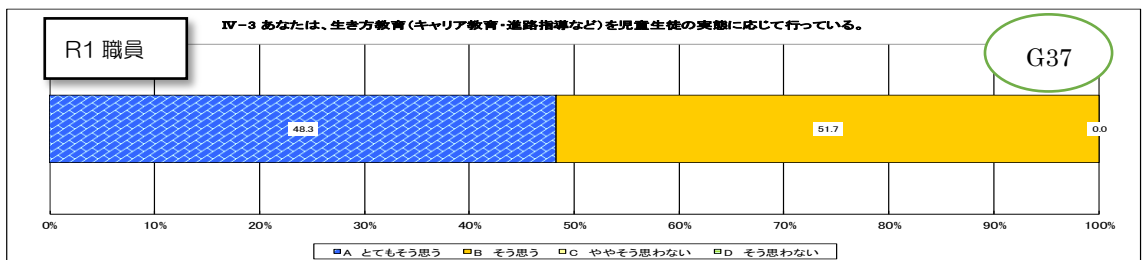
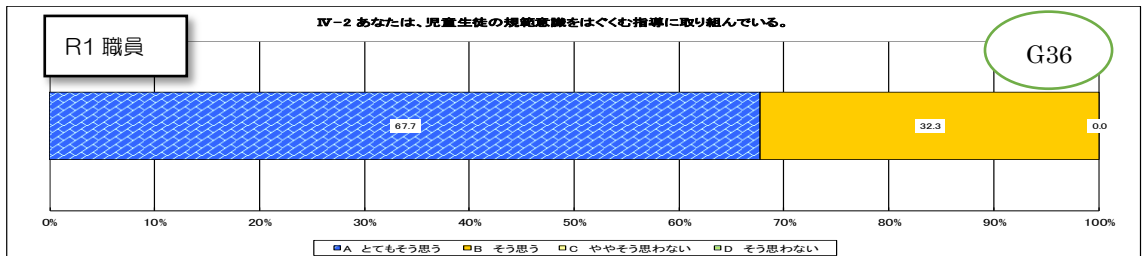
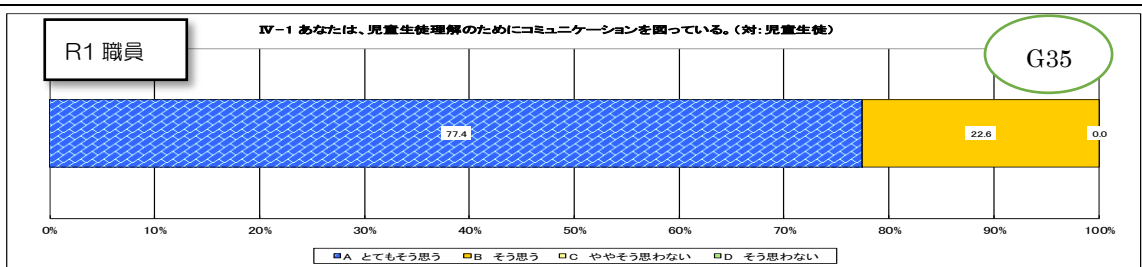


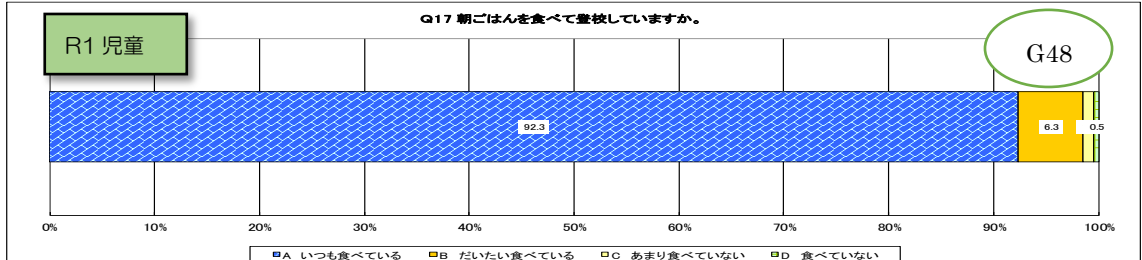
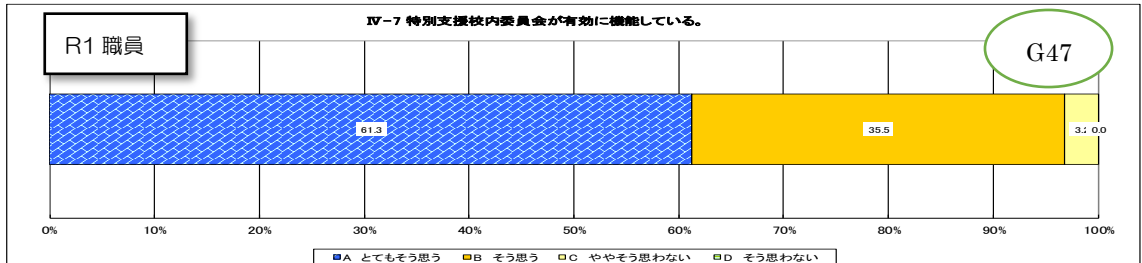
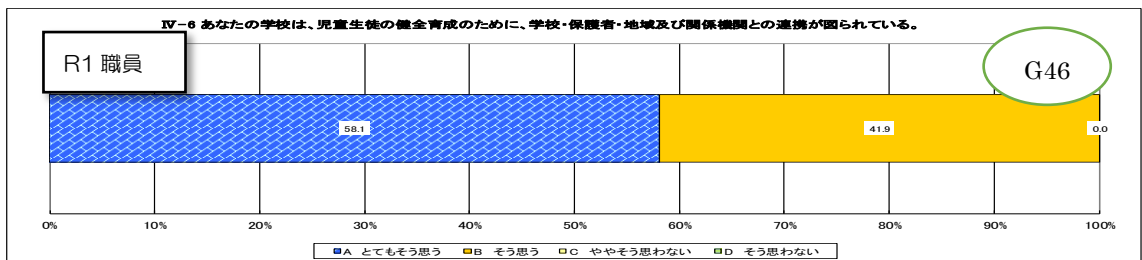
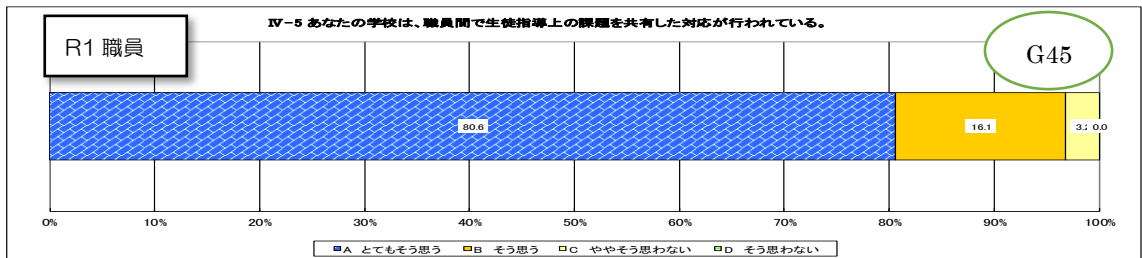
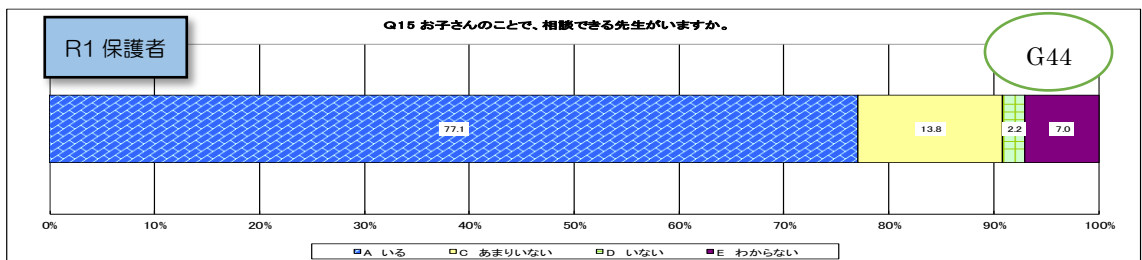
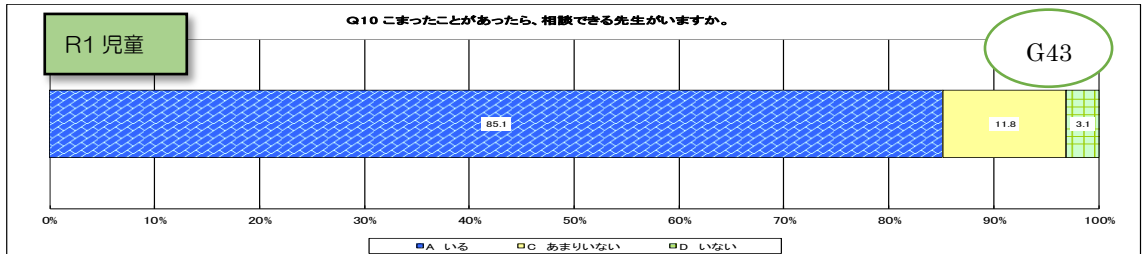
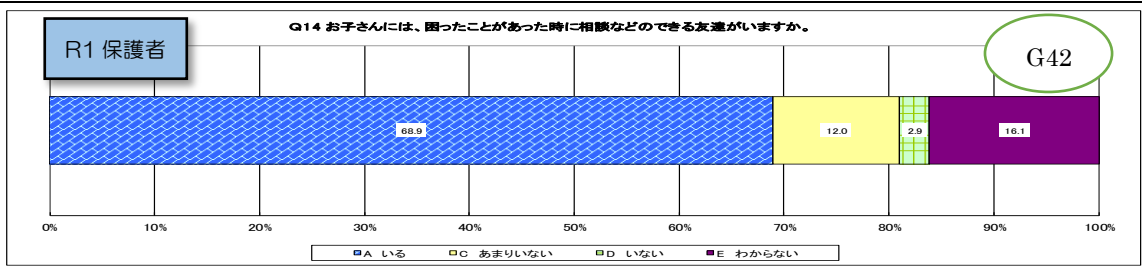
改善策	・危機管理マニュアルの理解については、A肯定率が61%と低かった。児童が自ら危険を予測し、回避できるための主体的に判断できる安全教育を充実させるためにも、より実践的な防災訓練を実施し、マニュアルの理解の充実を図っていく。 ・校内研究に関しては、県総合教育センターの協力を得て進めてきた理論と実践の研究を土台とし、さらに主体的な研究を行っていく。また、全職員が積極的に研究に参加するために、より実践的で普段の授業で役に立つ研究を進めていく。 ・「報告・連絡・相談・確認」は、組織的運営を行っていく上でもっとも重要であることを、全職員で再認識し、授業や生活における生徒の情報や指導方針を共有できる場、コミュニケーションの場となるように、職員がワンチームで教育活動が行える雰囲気を醸成する。 ・多忙化改善のため、できるだけ校務分掌を平均化し、学年体制で補える部分、職員全体でバックアップできる内容等、状況に応じて複数職員で対応できるような協働体制をさらに強めていき、計画的・組織的に教育活動を行っていきたい。																				
Ⅲ 学習指導について																					
達成状況	・今年度は職員の自己評価10項目すべてにおいて、A Bの肯定率が100%であった。日々の教育活動を通して、確かな学力を育てる授業実践に努めていることがうかがえる。 ・学習指導の基盤は学級づくりであり、各学年、学級ともそれを踏まえている。 ・全体的にA肯定率の上昇が目立った。昨年に比べ「学びの意欲を喚起する授業実践」は10ポイント、「基礎基本の定着する授業実践」は16ポイント、「教材等の活用した授業」は22ポイントの上昇で、本校職員のわかりやすい授業への熱意や意欲向上がうかがえる。 ・全校児童の「先生はよく勉強を教えてくれる」「国語・算数の内容はわかりますか」については、A B肯定率は高く、保護者も「学校は熱心に授業に取り組んでいる」について肯定率が90%を超えている。しかし、「学校の授業は楽しくない」「授業がわからない」と感じている児童が1%未満でもいる状況から、今後も「わかる授業」「楽しい授業づくり」を積極的に取り組み、教師の授業力向上を図る。 ・「質問や意見が出てくる授業」について、肯定率は教師が100%であることにに対し、児童は昨年より5ポイント上昇したが74%であった。児童は、授業が「わかる」と良好な回答をしている反面、質問や発言等については、学年が進むにつれ消極的になる傾向がある。 ・「家庭学習」については、教師のA肯定率は17ポイント上昇したが、児童の昨年度とほぼ同じ傾向であった。ただし、「平日の家庭での学習時間」については、A肯定率が7ポイント上昇し、A B肯定率は85%に上昇した。 Ⅲ-1 あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A とても思う</td> <td>76.9</td> </tr> <tr> <td>B そう思う</td> <td>23.1</td> </tr> <tr> <td>C ややそう思わない</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>D そう思わない</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table> Ⅲ-2 あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A とても思う</td> <td>64.0</td> </tr> <tr> <td>B そう思う</td> <td>36.0</td> </tr> <tr> <td>C ややそう思わない</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>D そう思わない</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>	Response	Percentage	A とても思う	76.9	B そう思う	23.1	C ややそう思わない	0.0	D そう思わない	0.0	Response	Percentage	A とても思う	64.0	B そう思う	36.0	C ややそう思わない	0.0	D そう思わない	0.0
Response	Percentage																				
A とても思う	76.9																				
B そう思う	23.1																				
C ややそう思わない	0.0																				
D そう思わない	0.0																				
Response	Percentage																				
A とても思う	64.0																				
B そう思う	36.0																				
C ややそう思わない	0.0																				
D そう思わない	0.0																				



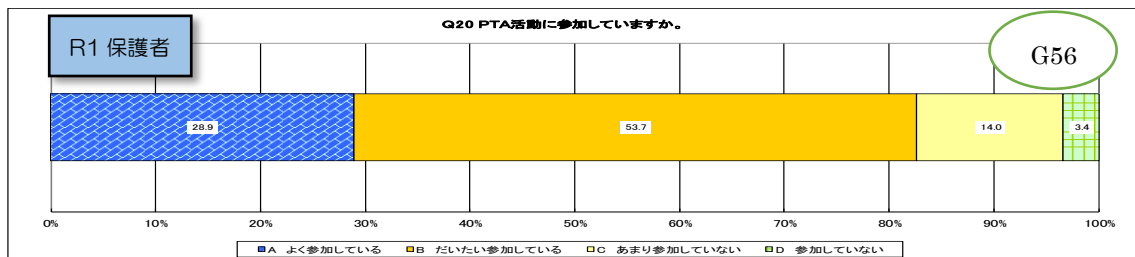
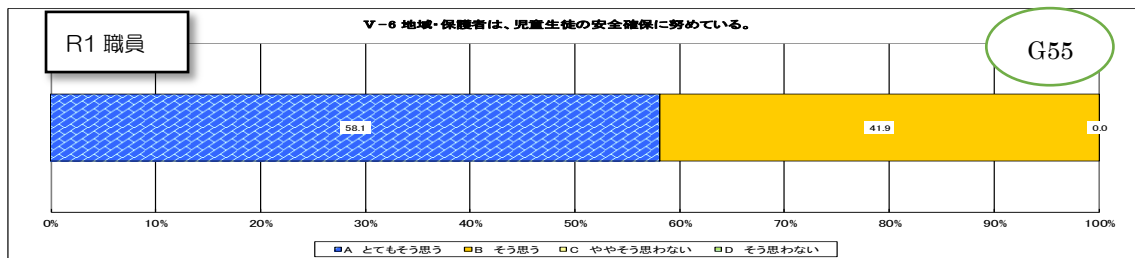
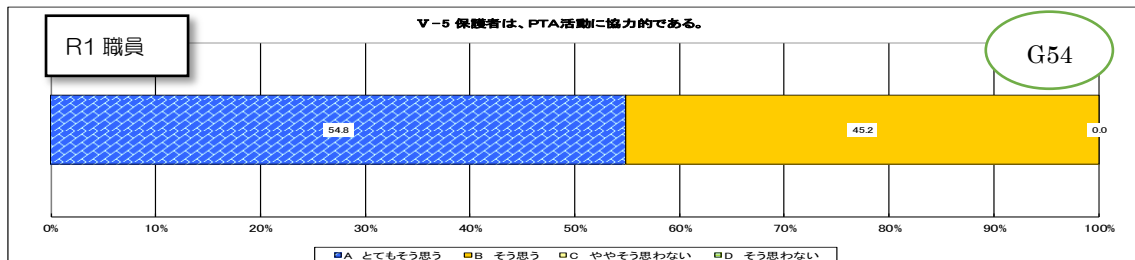
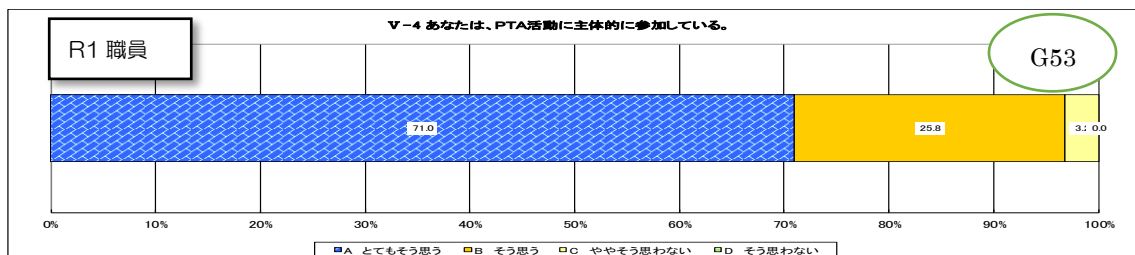
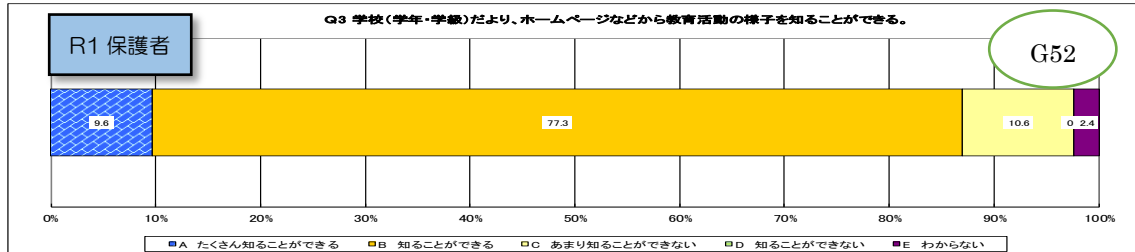
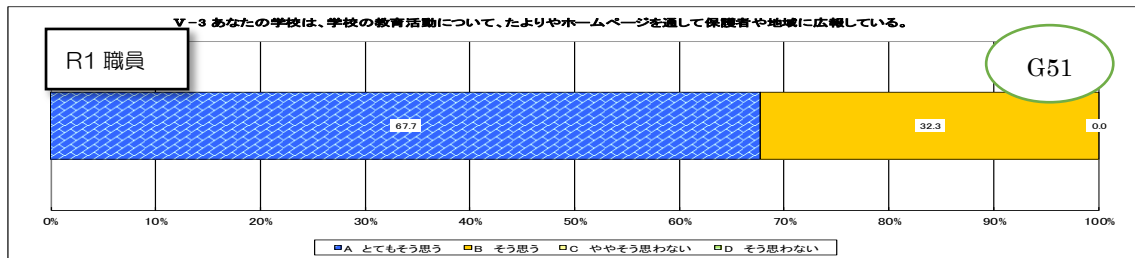


	R1 児童 G32 Q13 月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A いつもしている</td> <td>47.1</td> </tr> <tr> <td>B だいたいしている</td> <td>37.8</td> </tr> <tr> <td>C あまりしていない</td> <td>11.2</td> </tr> <tr> <td>D していない</td> <td>3.8</td> </tr> </tbody> </table> R1 職員 G33 Ⅲ-9 あなたは「きめ細かな指導」により、児童の学習意欲を高めている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A とてもそう思う</td> <td>61.5</td> </tr> <tr> <td>B そう思う</td> <td>38.5</td> </tr> <tr> <td>C ややそう思わない</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>D そう思わない</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table> R1 職員 G34 Ⅲ-10 あなたは「きめ細かな指導」により、児童に学習内容を身につけさせている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A とてもそう思う</td> <td>57.7</td> </tr> <tr> <td>B そう思う</td> <td>42.3</td> </tr> <tr> <td>C ややそう思わない</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>D そう思わない</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合 (%)	A いつもしている	47.1	B だいたいしている	37.8	C あまりしていない	11.2	D していない	3.8	回答	割合 (%)	A とてもそう思う	61.5	B そう思う	38.5	C ややそう思わない	0.0	D そう思わない	0.0	回答	割合 (%)	A とてもそう思う	57.7	B そう思う	42.3	C ややそう思わない	0.0	D そう思わない	0.0
回答	割合 (%)																														
A いつもしている	47.1																														
B だいたいしている	37.8																														
C あまりしていない	11.2																														
D していない	3.8																														
回答	割合 (%)																														
A とてもそう思う	61.5																														
B そう思う	38.5																														
C ややそう思わない	0.0																														
D そう思わない	0.0																														
回答	割合 (%)																														
A とてもそう思う	57.7																														
B そう思う	42.3																														
C ややそう思わない	0.0																														
D そう思わない	0.0																														
改善策	・授業改善の工夫に引き続き取り組み、「わかる・楽しい授業」を実践する。 ・新学習指導要領に対応したカリキュラムマネジメントを行い、発達段階に応じた系統的・横断的な授業実践を進めることで、学習内容の一層の定着を図る。 ・「学びの意欲を喚起する」ために、ICT(Information and Communication Technology:情報通信技術)機器を積極的に利用するとともに、アクティブラーニングに取り組んでいく。 ・個に応じた指導（繰り返し指導、ドリル学習、その子にあった課題の与え方、支援員の効果的な活用、ユニバーサルデザインを活用した授業等）により基礎的基本的な知識・技能の確実な定着を図り、わかる喜びをもたせる指導をしていく。 ・エンカウンター等の手法を活用した学級づくり、学校全体としての授業規律（話し方、聞き方、ノートを使い方、必要な学習用具の用意等）の構築を一層進めていく。																														
Ⅳ 生徒指導について																															
達成状況	・生徒指導について職員のA Bの肯定率は、5項目が100%、2項目が97%であった。特に「問題行動への早期対応」についてはA肯定率が昨年より23ポイント上昇し77%となり高い意識の向上が見られた。全体の傾向として全職員で生徒指導上の課題を組織的に取り組むための共通理解が図られていると言える。 ・生き方教育（キャリア教育）は、今年度A B肯定率が100%になったにも関わらず、A肯定率は昨年より15ポイント上昇したが48%と半分を超えていない。来年度より「キャリアパスポート」などの取組が始まるが、児童が将来の見通しを持つうえでも重要な学習であり、積極的な取組が求められる。 ・児童アンケートの「学校が楽しい」「仲の良い友だちがいる」「困ったことがあったら相談できる友だちがいる」「困ったことがあったら相談できる先生がいる」について、多くの児童は肯定的であるが、否定的に感じる児童もいることから、児童理解をきめ細かく行っていく必要がある。また、保護者アンケートでの「学校は楽しいところ」「困ったことがあったとき相談などできる友だちがいる」「子どものことで相談できる先生がいる」についても同様である。 ・朝食については、ほとんどの児童が食べて登校している。しかし、食べてきていない児童も数人いることから、家庭との連絡を取る中で改善させていく必要がある。																														





改善策	・「問題行動の早期発見・対応」については、Q-U 調査や児童対象の学校評価、いじめアンケートを有効に活用し、児童一人ひとりの理解や支援を行っていく。 ・児童一人ひとりが主体的に参加し活躍できる「わかる授業づくり」や「信頼される集団づくり」など自己有用感や自己肯定感を育む教育活動の充実を図っていく。 ・担任だけでなく、全職員で全校児童とのふれあいの機会を持つように心がけるとともに、PTA 活動を通して保護者との交流を図りながら、児童や保護者から相談しやすい教師とワゴンチームとして教育目標を具現化する学校を目指す。 ・普段から児童とのコミュニケーションを深め信頼関係を醸成するとともに、児童の変化をきめ細かく見取り、児童の情報交換と指導方針を共有し合うことで、全職員が同じ歩調で対応できるようにする。 ・ユニバーサルデザインをもとに、しっかりと学習に取り組む学習習慣と、きまりを守り、清掃をしっかりとするなどの生活習慣、仲間づくり等、当たり前のことを当たり前にできる児童の育成を全職員で取り組んでいく。																				
V 地域との連携について																					
達成状況	・地域との連携については、8 項目中 3 項目が A B 肯定率 100% となっている。PTA にもさまざまな活動に協力していただいている。 ・「地域人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導」については、A 肯定率が 16 ポイント上昇し 52% となった。今年度は、次のような学習活動を地域や外部指導者をお願いし、実施してきた。 1 年：昔のあそび集会：保護者、祖父母 2 年：町探検：保護者 命の学習：外部指導者 3 年：校区探検：保護者 自転車教室：交通指導員、保護者 豆腐作り：外部指導者 4 年：人権学習：地域指導者 認知症学習：地域指導者 職業教育：保護者 5 年：水の学習：外部指導者 環境学習：外部指導者 家庭科実習：保護者 6 年：救急救命法：外部指導者 ・「地域人材の活用」は各学年で人材を依頼しているが、地域人材を発掘・活用するように今後も連携・協働を進めていく。 ・ホームページや学級・学校だよりをはじめ、図書・保健・給食・研究だよりなど各担当からも保護者への情報発信を行い、開かれた学校づくりに努めてきた。保護者アンケートからもホームページや各種たよりから学校の活動の様子について知ることができる肯定率は高くなってきている。また、ホームページでは、子ども達の活動の様子を伝える新しい情報の更新を随時行っていることから閲覧者数も増えてきている。 ・PTA 活動も、無理のない範囲で協力し合って実施できている。 V-1 あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。 R1 職員 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A とても思う</td> <td>51.6</td> </tr> <tr> <td>B そう思う</td> <td>41.9</td> </tr> <tr> <td>C ややそう思わない</td> <td>3.2</td> </tr> <tr> <td>D そう思わない</td> <td>3.2</td> </tr> </tbody> </table> G49 V-2 あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。 R1 職員 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A とても思う</td> <td>45.2</td> </tr> <tr> <td>B そう思う</td> <td>51.6</td> </tr> <tr> <td>C ややそう思わない</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>D そう思わない</td> <td>3.2</td> </tr> </tbody> </table> G50	回答	割合 (%)	A とても思う	51.6	B そう思う	41.9	C ややそう思わない	3.2	D そう思わない	3.2	回答	割合 (%)	A とても思う	45.2	B そう思う	51.6	C ややそう思わない	0.1	D そう思わない	3.2
回答	割合 (%)																				
A とても思う	51.6																				
B そう思う	41.9																				
C ややそう思わない	3.2																				
D そう思わない	3.2																				
回答	割合 (%)																				
A とても思う	45.2																				
B そう思う	51.6																				
C ややそう思わない	0.1																				
D そう思わない	3.2																				



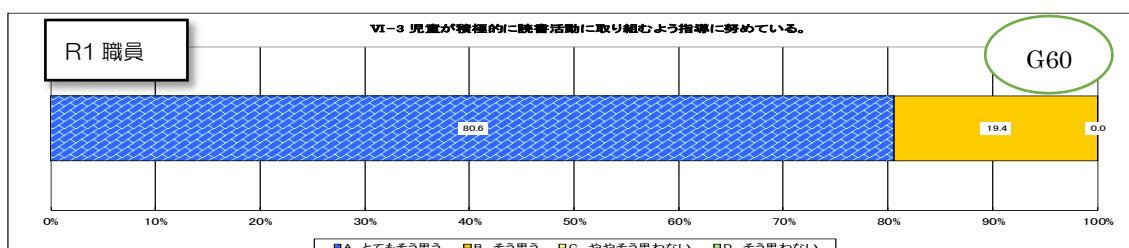
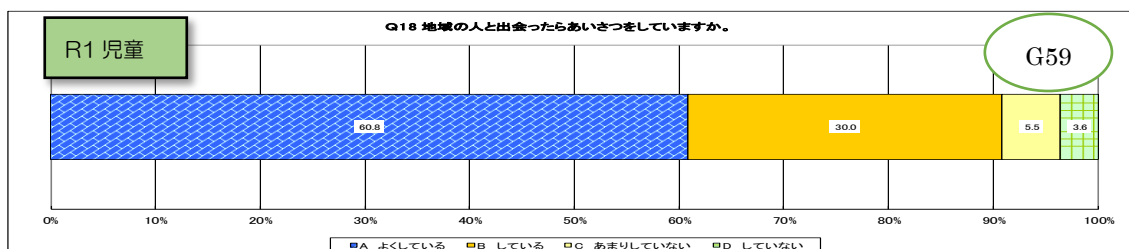
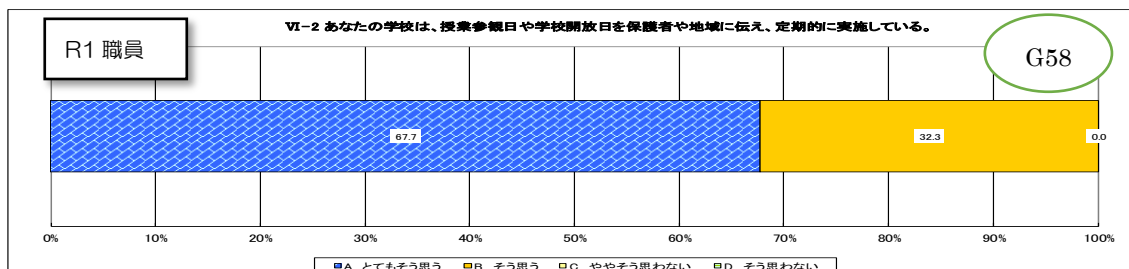
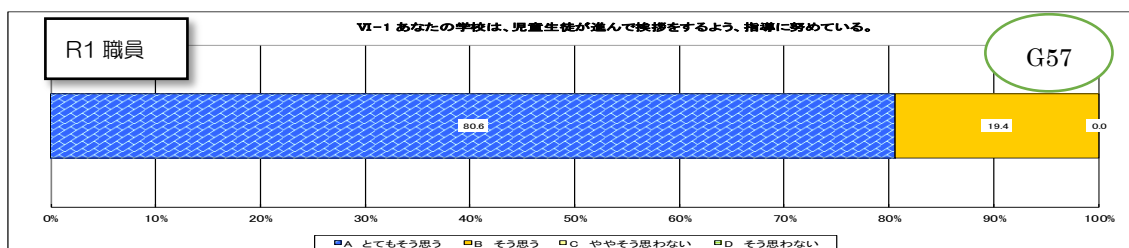
改善策

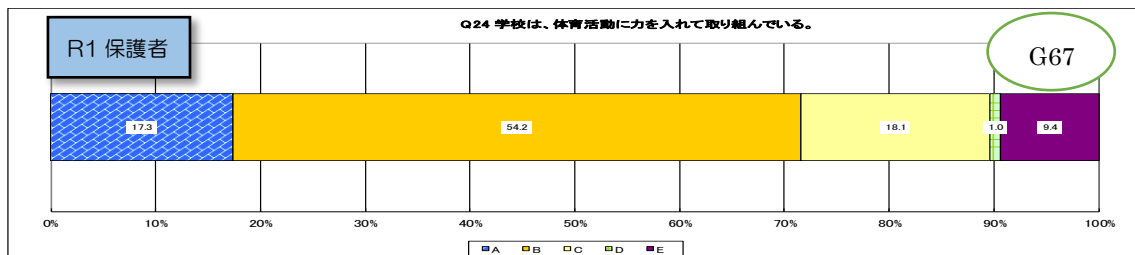
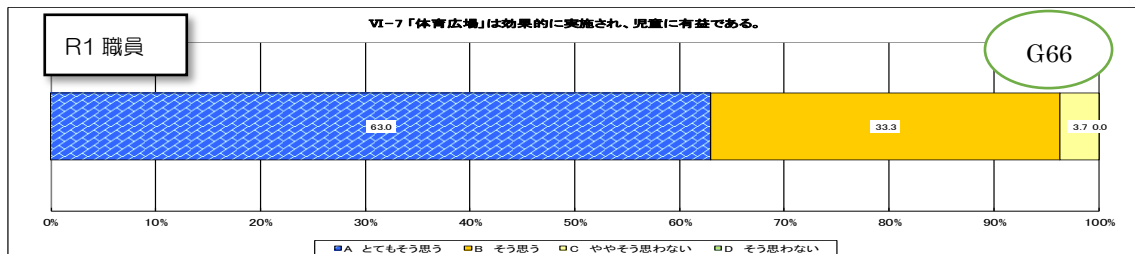
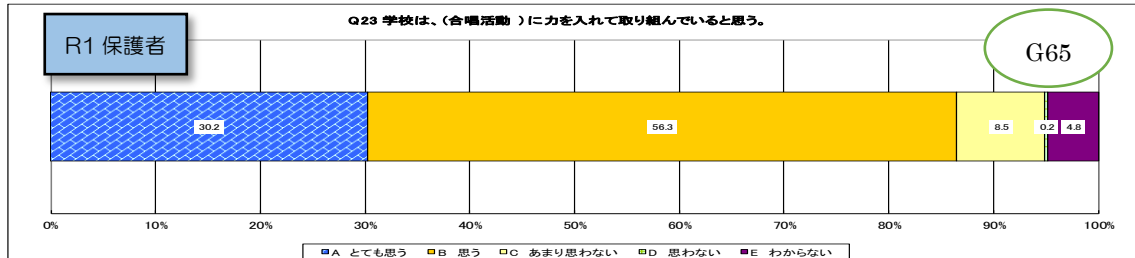
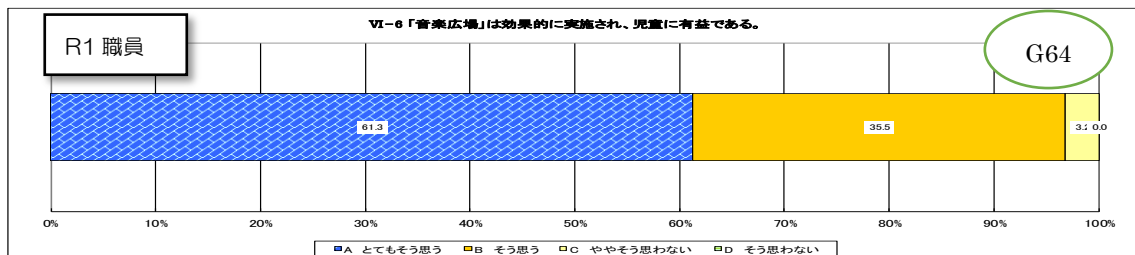
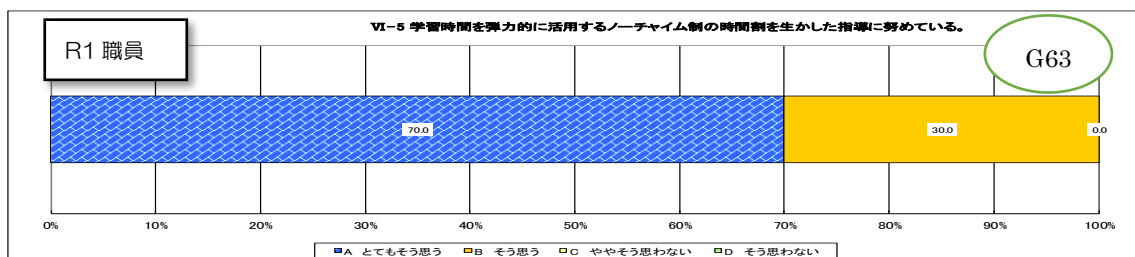
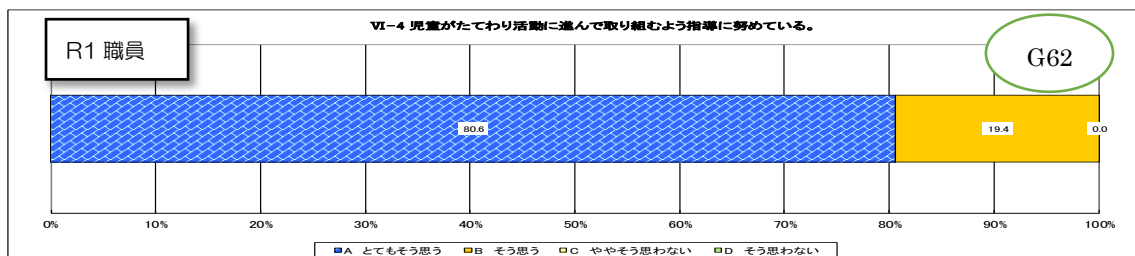
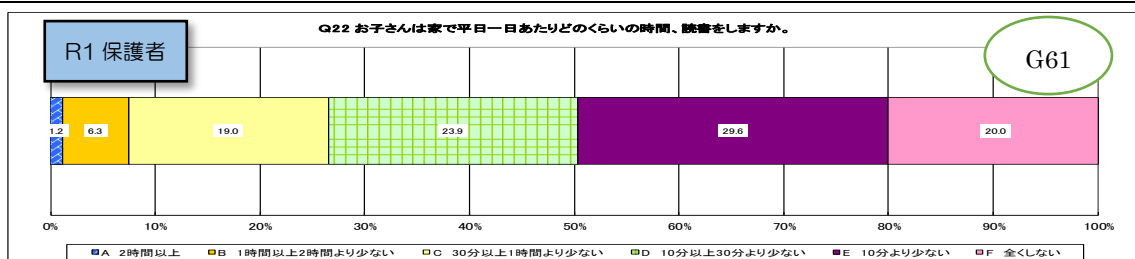
- ・家庭や地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進のため、必要な情報を積極的に発信していくとともに、地域教材や人材を教育資源として取り入れ、地域の教育力を生かす教育活動に取り組んでいく。そのために、学習ボランティアや地域人材によるゲストティーチャーを積極的に活用し、地域との連携・協働を推進する組織づくりを進めていく。
- ・ホームページを学校活動紹介の発信源の一つとして地域に周知し、閲覧者数が増えるように今後も更新回数を増やし、内容の充実や広報活動に努めていく。

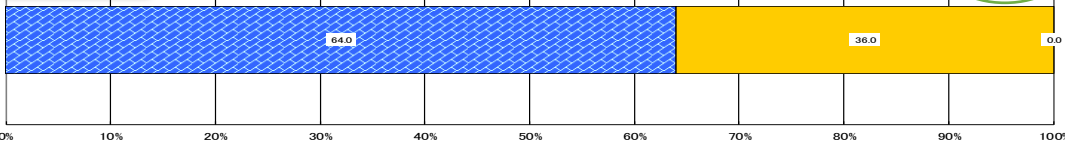
VI 学校の特徴に関して

- ・8 項中 7 項目が A B 肯定率 100% であり、昨年より 1 項目増えた。これまで同様に「あいさつ」「読書」「縦割り活動」「音楽広場」「体育の広場」「おはようタイム」などの取組は、本校の教育課程上、特色ある重要な取組であることを表している。
- ・児童会を中心とした「朝のあいさつ運動」を毎日行っていることから、児童が「あいさつをしている」の肯定的評価は 90% であった。しかし、登校時の旗振り当番や地域の方から、「あいさつをしない子もいる」という報告が前回と同様にあり、「地域の人と出会ったら挨拶をしていますか」の問いに対する A 回答は昨年度と同様で 60% と低い
- ・読書活動においては職員の A 回答が 14 ポイント上昇し、「家読」の取組や「外部ボランティアによる読み聞かせ」等、図書環境の整備によって大きな成果を上げている。
- ・縦割り活動も A 回答が 15 ポイント上昇し、異学年交流の場として位置づけられている。
- ・「ノーチャイム制」は新教育課程に向け日課時間表を変更したため、児童の自主性、計画性を育てつつ時間に対する意識を高めるため、一部チャイムが鳴るように変更した。
- ・「音楽への取組」は全体的に若干下降したが、音楽広場等の練習の成果が「音楽会」で発表され、保護者や地域の方からの理解が深まっていると考えられる。
- ・体育広場では、「ラジオ体操」「長縄」に取り組んだ。特に、長縄の取組では、クラスの目標に向かって、体育の時間や休み時間にも取り組む姿が見られ、クラスづくりの上でも成果があった。
- ・新学習指導要領に対応するため、年度途中で「おはようタイム」を廃止し「モジュール学習」を新たに設定した。

達成状況





	R1 職員 VI-8「おはようタイム」が効果的に機能している。 G68  ☐ A とても思う ☐ B そう思う ☐ C ややそう思わない ☐ D そう思わない
改善策	・学校の特色とは、他と違う何か特別なものというのではなく、児童、学校、地域、保護者の実態を生かした、本校にしかない「強み」である。その「強み」に向かって、限られた時間の中で計画的に取り組むことができるように、諸活動の改善や見直しを図っていく。特に、児童会を中心とした縦割り活動・色別活動・音楽広場・体育広場では、子どもたちが主体的に取り組む態度の育成を図っていく。 ・一部チャイムが鳴るように変更したノーチャイム制だが、それを実施する意味を再度職員が確認し、子ども達に伝えて自律した生活を意識させることが必要である。児童が生活の中での時間を意識し、自ら考え主体的に行動できるように、その活動の意味を常に問い直し、必要だから実施するのだという理由を意識していくことが大切である。
	3 まとめ 〈成 果〉 ○「学校教育目標・学校経営」について、学校教育目標、学校経営方針に基づき、児童や地域の実態にあった具現化した教育実践が行われた。 ○「学校運営」について、「職員会議」や「校内研究」に主体的に取り組み、ワンチームとして相互理解や信頼関係を深めた教育活動にあたる姿がうかがえた。 ○「学習指導」について、学習内容の習得や生活及び生徒指導等において、個の発達段階に応じた指導が行われている。また、おはようタイムにおける読書や基礎的学力を高める取組、TT指導や支援員との連携によるきめ細かな指導等による成果が出ている。 ○「生徒指導」について、職員間の報告・連絡・相談・確認の指導体制の徹底が図られている。保護者との連絡調整・関係機関との連携は着実な成果を上げている。 ○「地域連携」について、ホームページでの発信や、学級・学校だよりを始め、図書・保健・給食・研究だよりなどの発行により適切な情報提供がなされ、保護者や地域に広報活動が行われている。 ○「学校の特色」に関して、あいさつ運動・読書活動・縦割り活動・音楽広場・体育広場等、本校の児童の実態に合った取組が行われている。 〈課 題〉 ○今後もPDCAサイクルを通した教育実践と評価の具現化を図る。 ○危機管理意識の高揚と、報告・連絡・相談・確認の徹底を図る。 ○情報管理に対する意識をさらに高める。 ○学びの意欲を喚起し、質問や意見が出る授業づくりをさらに推進する。 ○ICT機器の積極的な利用と、アクティブラーニングの実践を進める。 ○カリキュラムマネジメントを意識したスパイラルな授業実践を進めることで、学習内容の一層の定着を図る。 ○英語・プログラミング学習・道徳等、新学習指導要領の実施に向けた工夫を具体化させる。 ○児童の実態に合わせ、様々な生き方教育（キャリア教育）を実践する。 ○保護者や地域に信頼される教育活動を実践する。 ○小中連携については、9年間で子どもたちを育てるという意識を高め、具体的な場面での連携を図っていく。 ○確かな学力の育成のためにはゆとりある授業時数の確保が必要である。竜王北小の子どもたちに必要な力は何かを考え、行事や諸活動の改善や見直しを検討していく。 ○当たり前のことが当たり前にできる児童の育成をめざし、全職員の共通理解のもと子どもたちの指導にあたる。 ○心を育てる指導を行い、心のこもったあいさつが自然にできるような子どもを育てる。